

人間科学部 社会福祉学科

ディプロマ・ポリシー

1. 卒業要件

以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 90 単位以上、共通科目から 26 単位以上、関連科目及び共通科目から 8 単位以上、合計 124 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（社会福祉）の学位を授与する。

2. 修得する能力

- (1) 人間の生涯にわたる成長と発達について自然環境や社会と関連させて理解している。
- (2) 人間の尊厳の価値を踏まえて自らが社会的役割を有することを自覚し、主体的思考力や総合的判断力、発表能力、情報処理能力等をもって新たな社会の変化に柔軟に対応し問題解決に向けて行動する。
- (3) 人権と社会正義の理念に精通し、高い倫理観を身に付けている。
- (4) 他者を受容し共感する力を修得している。
- (5) 個人と社会の幸福を追求し、それらが相互に関連していることを理解し、社会福祉専門職となる基本的知識と技術を備えている。
- (6) 科学・文化・社会の体系の基本的意義を理解している。
- (7) 社会福祉分野の専門的知識・技能を習得し、現実場面で実践できる。社会福祉に関する資格や免許を取得するために必要な能力を修得している。
- (8) 対人関係の支援に必要なコミュニケーション能力と応用的能力を身に付けている。
- (9) 人々が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる。
- (10) データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集することができ、また、その内容を適切に解釈して活用することができる。
- (11) 社会福祉学的視点からグローバルな事象について考察する力を身に付けている。
- (12) 知識と外国語を利用して実践できる。

3. 卒業後の進路

社会福祉（児童、障がい者、高齢者）、福祉行政分野（福祉事務所、児童相談所）、社会福祉協議会、医療保険機関、NPO 法人、高等学校教員等への就職、更に大学院への進学が期待される。

カリキュラム・ポリシー

1. 体系（構成）

- (1) 社会福祉学科の授業科目は、専攻科目・関連科目・共通科目から構成されている。
- ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
 - ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
 - ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
- (2) 専攻科目は、以下の6つの科目群から構成されている。
- ①基本科目及び方法・技術科目では、社会福祉に関する基本的知識と援助内容を学修する。科目中の「社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ」は、卒業必修科目である。
 - ②技術演習・実習科目では、社会福祉士、精神保健福祉士及び保育士資格取得のために福祉現場での実習教育を受講する。
 - ③専門領域科目・専門展開科目では、将来の進路に対応した専門的な内容を学ぶ。特に、専門領域科目では、児童福祉、障害者福祉、老人福祉、コミュニティ福祉の4つの学習領域に区分した諸科目群を学ぶ。
 - ④専門演習・卒業論文では、各自が課題を設定し、レポート作成、研究発表、グループ討議を通して課題の探求を行う。その成果を卒業論文として作成・提出することも可能である。

2. 特色

- (1) 入学時から、人間と福祉を探求するカリキュラム構成により、1年次の基礎演習を通して、学問に取り組む基本と集団の力動を学ぶ。2年次、3年次の専門教育を経て、4年次には自分の研究課題を専門演習で探求し、論文を作成することができる。
- (2) 一般教養科目を重視した幅広いカリキュラム構成により、キリスト教学を含む人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学、外国語等を選択的に学ぶことができる。
- (3) 一人ひとりの進路に対応したカリキュラム構成により、希望する進路に応じて社会福祉学を修め、資格取得に関する科目を系統的・体系的に学ぶことができる。
- (4) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔基本科目〕

社会福祉分野の専門的知識・技能を習得し個人と社会の幸福を追求し、それらが相互に関連していることを理解し、社会福祉専門職となる基本的知識と技術を身に付ける。人権と社会正義の理念に精通し、社会福祉に関する資格や免許を取得するために必要な能力を修得する。

〔方法・技術科目〕

データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集し、また、その内容を適切に解釈して活用する。社会福祉に関する資格や免許を取得するために必要な能力を修得する。

〔技術演習・実習科目〕

社会福祉分野の専門的知識・技能を現実場面で実践できるように習得する。対人関係の支援に必要なコミュニケーション能力と応用的能力を身に付ける。

〔児童福祉科目〕

児童が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。人権の理念に精通し、高い倫理観を身に付ける。他者を受容し共感する力を修得する。

〔障害者福祉科目〕

障害者が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。他者を受容し共感する力を修得する。

〔老人福祉科目〕

高齢者が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。他者を受容し共感する力を修得する。

〔コミュニティ福祉科目〕

地域が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。

〔専門展開科目〕

人権と社会正義の理念に精通し、高い倫理観を身に付ける。

〔保育に関する科目〕

児童や児童を取り巻く保育環境の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。人権と社会正義の理念に精通し、高い倫理観を身に付ける。他者を受容し共感する力を修得する。人間の生涯にわたる成長と発達について自然環境や社会と関連させて理解する。

〔専門演習・卒業論文科目〕

社会福祉学的視点から、グローバルな事象について考察する力を身に付ける。データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集することができ、その内容を適切に解釈して活用する。人々が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

社会福祉学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。

- (2) 人と環境について学ぶことに関心をもち、基本的な学習能力を有する者。
- (3) 将来、社会に貢献する意欲をもち、特に社会福祉分野に自らの課題を見出せる者。
- (4) 地域や社会に参画する能力が高く、倫理規範を備えた者。

2. 選抜方法

社会福祉学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

- (2) 特別選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

特別選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、社会福祉学科として独自に、福祉科、介護福祉科等を設置する高校から福祉関係コースで学ぶ生徒の推薦を受け入れ、社会福祉学科での学びに強い関心を持ち、高校での学びを維持発展させる意欲のある者を対象とする。特別選抜入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

- (3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。